

患者利益

私は歯科医師です。歯科医師という職業なので患者さんという名称が出て参りますが、一般の企業の方には、顧客という言葉になると思います。

私は、4年の勤務医を経て、開業歯科医師としての職業に就いて、45年になります。この45年の臨床で一貫して私の考え方の軸として貫いてきたのが「患者利益」という言葉です。すなわち、「医療は、いつの時代にあっても、常に医療を受ける人々の利益を第一義として、人々の健康で快適な生活に貢献するもので無ければならない」という基本的コンセプトが根底をなしています。

さらに私の従事する歯科医療の目的は、人々が生涯にわたって口腔の健康を維持し、健全な機能を全うすることにあります。すなわち、いくつになっても、笑顔でおいしいものを食べ、楽しい会話が自然にできるということであります。

健康な人は、その状態を生涯にわたって維持していくための、健康を損なっている人は、速やかにその病的な状態を改善して、健康を回復し、回復された健康な状態を生涯にわたって維持していくための、支援をしていくことが私たち医療従事者の責務と考えています。

「患者利益」を考えたときに、次に掲げる3つの項目を大切に考えています。

- 1 正しい情報の提供
- 2 技術の熟達度（スキルアップ）
- 3 評価と評価結果のフィードバック

「健康」というのは生来の人間の姿なのです。しかしこの健康に関して、健康な状態とはどのような状態をいうのか、健康であるが故にその大切さをどのように認識しているのでしょうか。そして、この健康を阻害するものは、それと戦う方法は、そしてさらには、健康な状態で居続けるにはどうしたらよいのか、専門家として私たちは正しい情報を提供し続ける義務があります。正しい情報が伝えられていない人は、蝕まれた状態を修復することがすなわち健康な状態と勘違いをするかもしれません。ですから、歯というのはむし歯になってもしょうがないもの、むし歯になったら、歯医者で治してもらえばいいとか、年をとると歯はなくなるもの、なくなったら歯医者で入れ歯を作ってもらえばいい、といったことが今でも一般の常識になっていることは否定できない事実です。

しかし、現在では、お口の中の二大疾患であるむし歯（う蝕）も歯周病も発症のメカニズムが解明されたことで、対応が的確であれば予防できる疾患であることが理解できてきているのです。「得られる利益」はその情報提供の質・量に大きく左右されると思っています。ですから、正しい情報を提供し続け、同時にまたこれまで犯してきた間違いも正す義務があると思います。医療技術は本当に日々進歩しています。精一杯やってきたことが、ある日全く否定されるということも、それほど極端ではないものの、往々にして有るもので、正しい情報を伝えるために、日常の努力を惜しまないことは大切ですが、絶えず一次情報に触れ、科学的根拠に基づいた情報を得ることができるよう心がけています。

大げさな言い方かもしれませんが、専門的職業人として、患者さんの生き方によりよい支援者となることを生き甲斐として感じられれば、それは患者さんと私

たちお互いの利益につながると思います。

さらに、十分に正しい情報を提供することができたとしても、そこからわき上がる患者さんからの要望に十分に答えるスキルがあるかということもさらに重要です。

医院としての総合力がそこで問われますが、技術の熟達は一朝一夕に得られるものではありません。常にスタッフ全員で研鑽に励んでいますが、その質の向上と均一化のために ISO9001 の認証も取得いたしました。

そして、さらに私たちの働きかけが、果たして患者さんの利益につながっているのか、常に再評価を繰り返していかなくてはなりません。そのために、患者さん日々のデータを収集、蓄積、分析するシステムを構築しておく必要があります。集積、分析されたデータをもとに再評価した事柄をフィードバックすることでさらに「患者利益」が向上するものと思っています。

これらの3つの項目を、基本的ベースとして確実に実行することで、人々の健康で快適な生活に貢献していくことこそ、歯科医師としての職業奉仕と考えています。

そして、そこで大きな成果を上げることができれば、誇りと自信をもって、次の世代に伝えていくことで、みんなが幸福になっていくものと考えます。